

みんなのしあわせをつくる市民後見

—人生100年社会の現状と市民後見人の役割—

牧野 篤
(東京大学大学院教育学研究科)

1. 何が問われているのか

Well-being (ウェル・ビーイング) :

よりよく生きる? (positive)

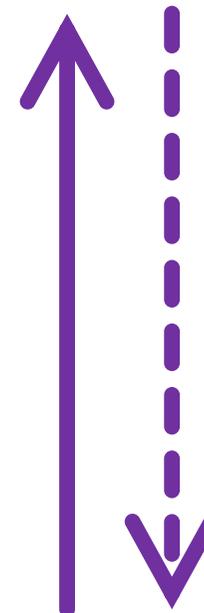
よりよくいる? (存在)

よく在る? (状態)

そう在るようにして在る (常態)

そう在るようにして在らしめられる (passive)
そう在るように受け入れあう

「ふるさと」をどうつくるのか



コロナ禍で起こった「恩送り」

「恩送り」：自分への見返りを考えずに、相手にとって「よきこと」をする
↳基本的に、次の世代を育むこと=社会をつなげること

私たちが社会をつくっていることの基盤

Compassion

⇒Compassionate Community (苦しみ・悲しみを分かちあう社会)

相手への想像力、「よきこと」に気づく、実践する

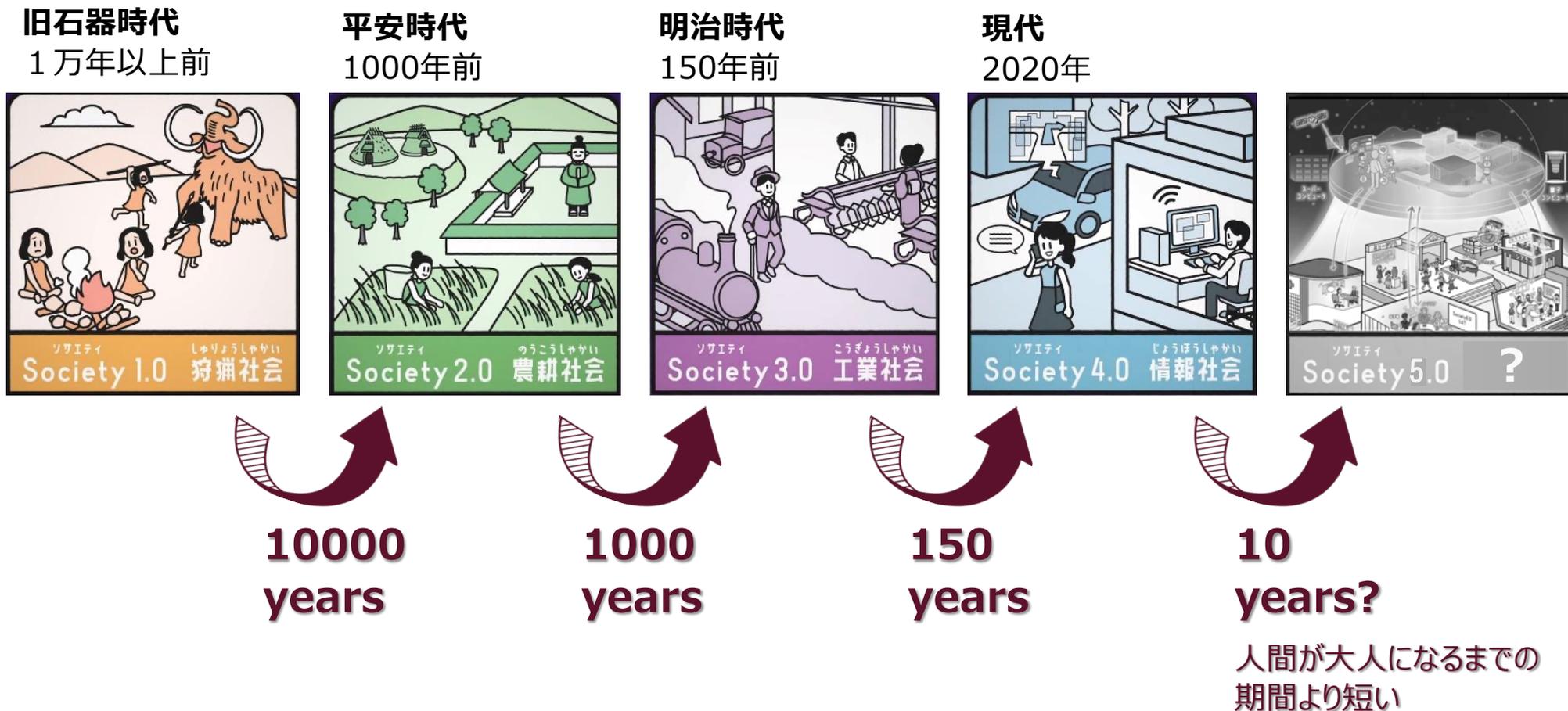
2. 転換点の社会

日本社会はいま、転換点にある

1. 少子高齢人口減少社会⇨人生100年時代の社会
⇨人生のステージ転換の必要
 2. 経済的な「変われなさ」⇨経済の停滞
 3. 人々の階層格差の拡大
 4. 人工知能の急速な発達
 5. 依存から自立・自律が求められる
 6. 認知症の急速な拡大
(2060年には総人口の13パーセントが認知症を患うとの予測も)
 7. リモート生活の拡大⇨生活の中に「働くこと」を組み込む
- 加えて、コロナ禍・激甚災害の頻発
さらに、気候変動
そして、戦争

Rapid social change

社会の変化のスピードが速くなっている



岩岡寛人・(一社)ディレクトフォース・シンポジウム資料(20230726)より

コミュニティと「学び」が焦点に

**←日本社会は明治以降、国の枠組みが動揺すると
コミュニティが政策的ターゲットになる**

総務省：地域運営組織・地域生活総合支援サービス

厚生労働省：地域包括ケアシステム・地域共生社会づくり・孤独孤立防止

国土交通省：国土強靱化・防災訓練・孤独孤立防止

まち・ひと・しごと創生会議：小さな拠点

経済産業省：未来の教室、半径50センチ革命、STEAMライブラリー

農林水産省：農村地域づくり事業体

文部科学省：コミュニティ・スクール、地域学校協働活動、GIGAスクール

全国社会福祉協議会：福祉教育から社会教育へ

政府：人生100年時代構想会議

主要テーマ：学び直し・リカレント教育

どれも〈学び〉を基盤にしないと機能しない
〈学び〉が社会の基盤となる

3. 人生100年時代の到来

2007年生まれの子どもの予測平均寿命=107歳

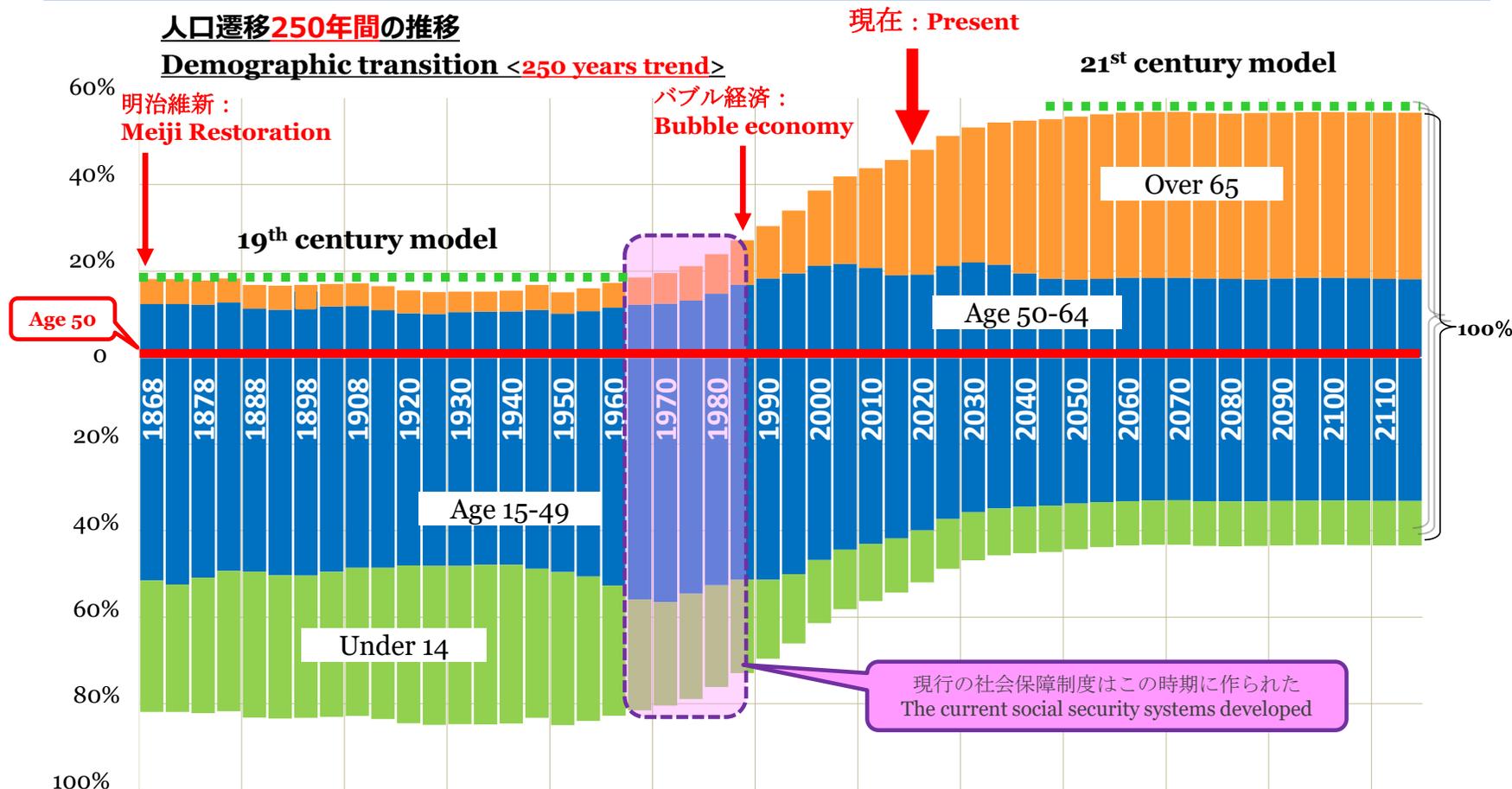
日本人の平均寿命=男性：81歳　　女性：87歳

死亡最頻年齢=男性：87歳　　女性93歳

健康寿命=世界で最も長い

人口構造の遷移 Japan's demographic structure & transition

- There has been a **major shift in the population structure** from the 19th to the 21st century.
- It will be **impossible** to maintain the **social security systems** established in 1960-80s.



Source: Sensus, Okazaki estimate, National Institute of Population and Social Security Research 2017 estimate

© T Hasegawa RIFH. Japan

UN Estimate2017

4. 「学び」とは人がつながるプロセス

当事者性・プライドが
ものをいう

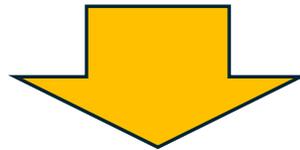
つながり



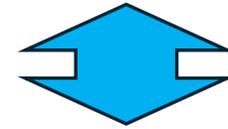
当事者性

プライド

自己有用感



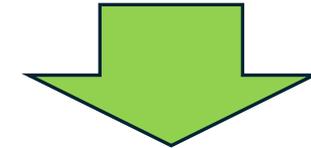
問題は事件が起こる前に
起きてしまっている
それが後から露わになる



自己発見・新しい自分

Well-being

(幸せを感じられる状態にある)



問題が起こらない社会

サービス（お客様扱い）は
当事者性・プライド・自己有用感
= 生きる意欲
を奪う暴力

芸術・文化そのものの効能
コミュニティ形成や維持
直接的な有用性
⇒人々を結びつける
生きる意欲
互いに尊重しあう

芸術・文化の本当の力
(平田オリザさんの話)

公共財・つながり・共通善

恩送り

社会的処方
(居場所・出番)

芸術・文化による社会的包摂

社会の基盤を「耕す」社会教育

**人はともに寄り添うことで
コミュニティを保ち続けることができる**

コミュニティはcompassionの「関係」

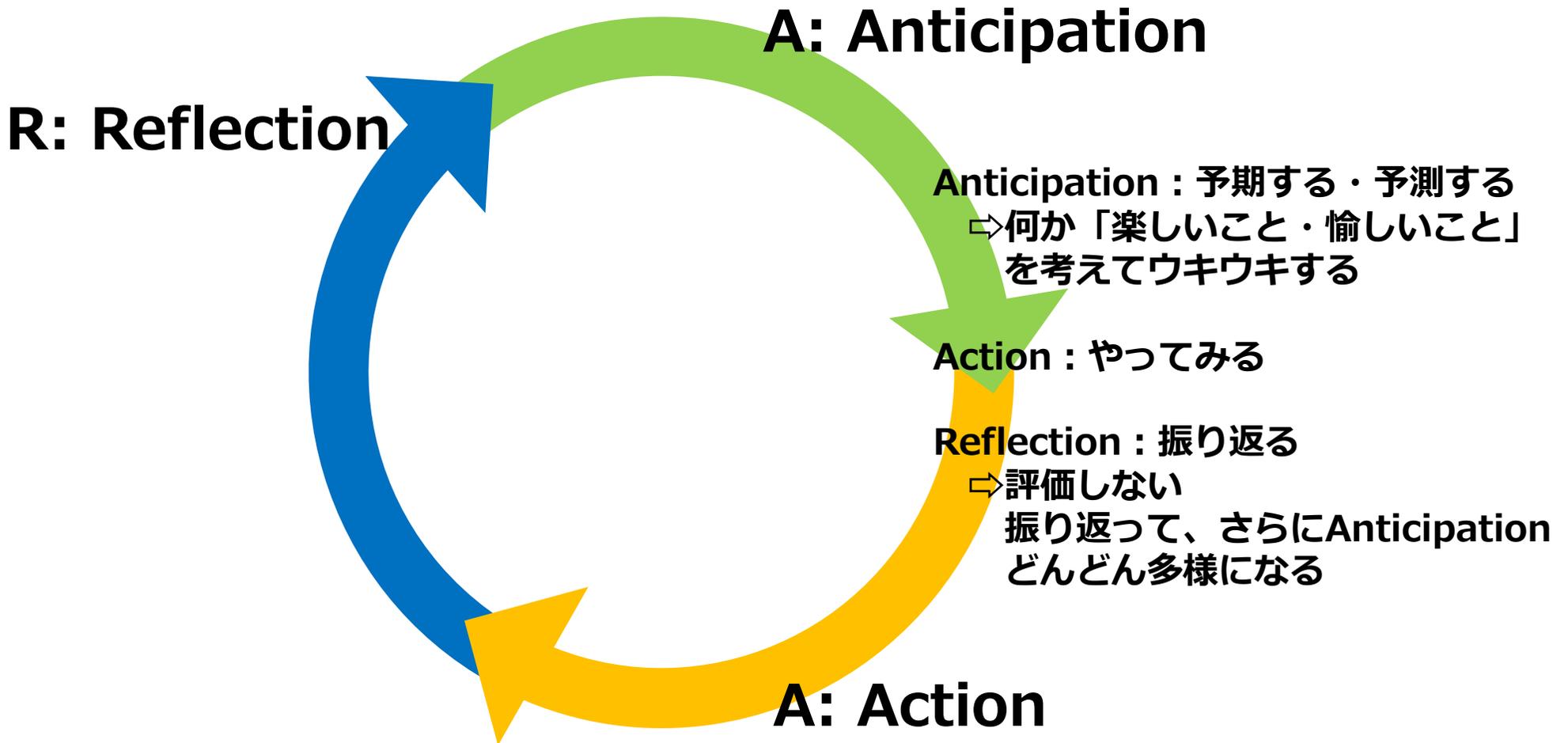
5. 「社会」をつくる

**「社会」を取り上げる場合
意外と見落とされがちなのが
「ひと」**

「社会」とは「ひと」

「ひと」とは？

6. PDCAからAARへ



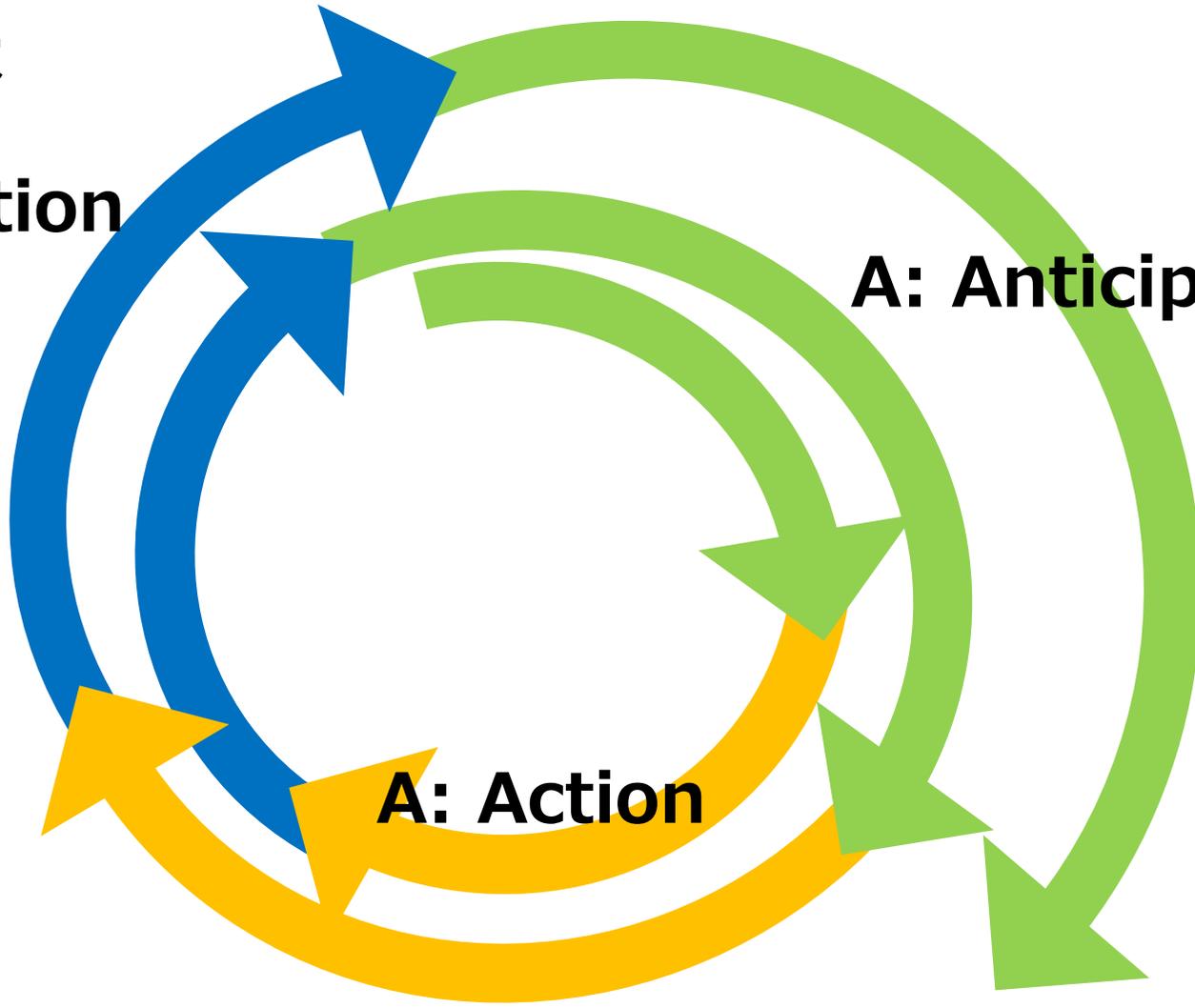
参考 : OECD Education 2030

実際は

R: Reflection

A: Anticipation

A: Action



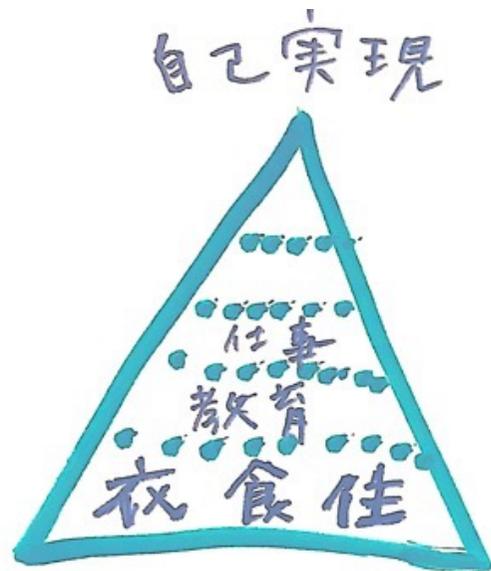
7. FOR ALLの上にBY ALLへ

全員が当事者になる

**自分を尊重してもらえ
相手を尊重している**

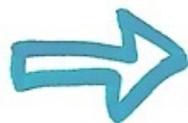
信頼感と想像力

8. 「はまる」と、「育つ」



マズローの法則

Maslow's Law



ジグソーモデル

Jigsaw-puzzle model

上田假奈代氏提供資料

9. 「ふるさと」をつくる：AAR代謝へ

「ひと」との「あいだ」が自分の居場所になる

「ひと」が「ふるさと」となる

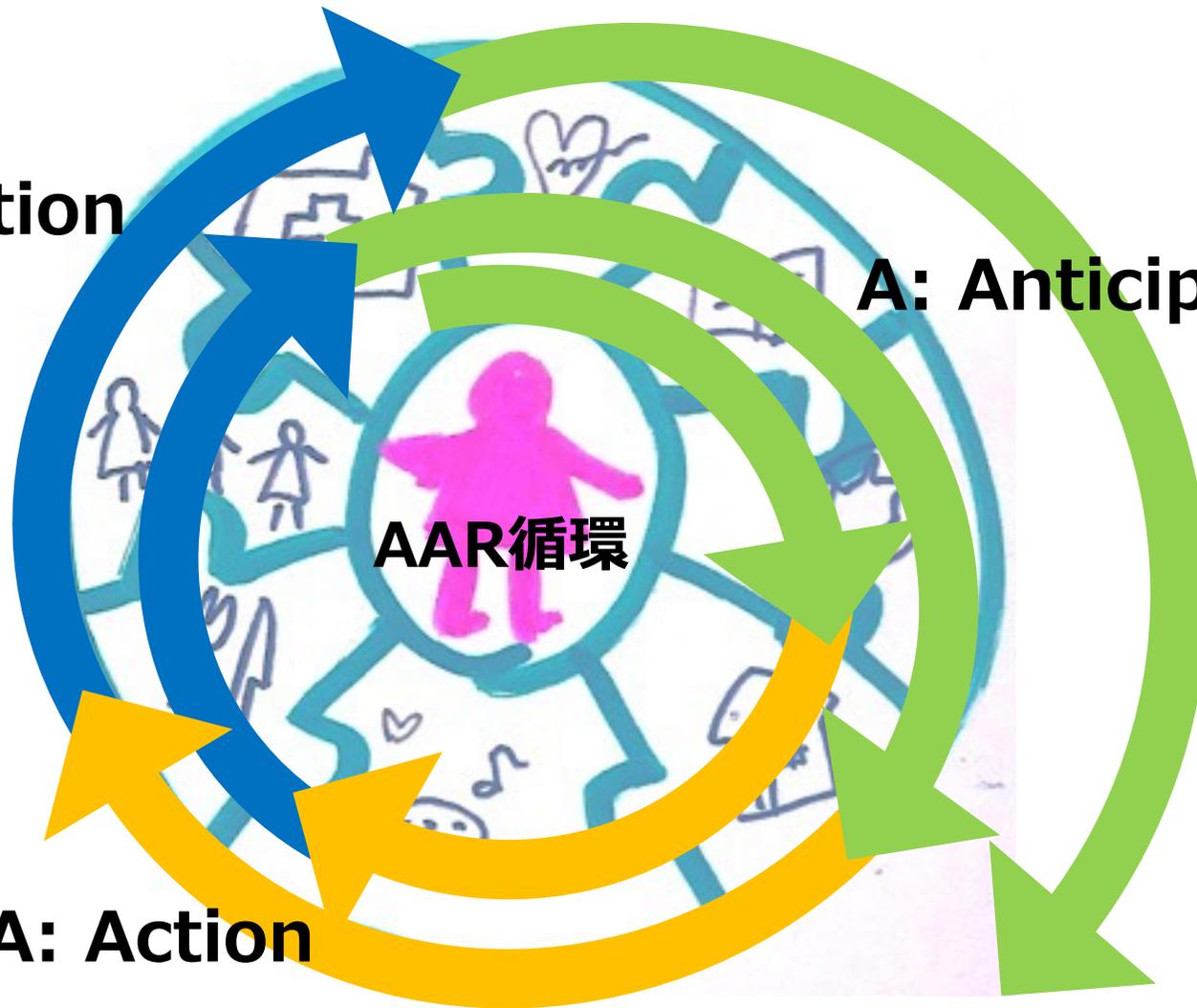
「ふるさと」とは自分に「誇り」を持てること

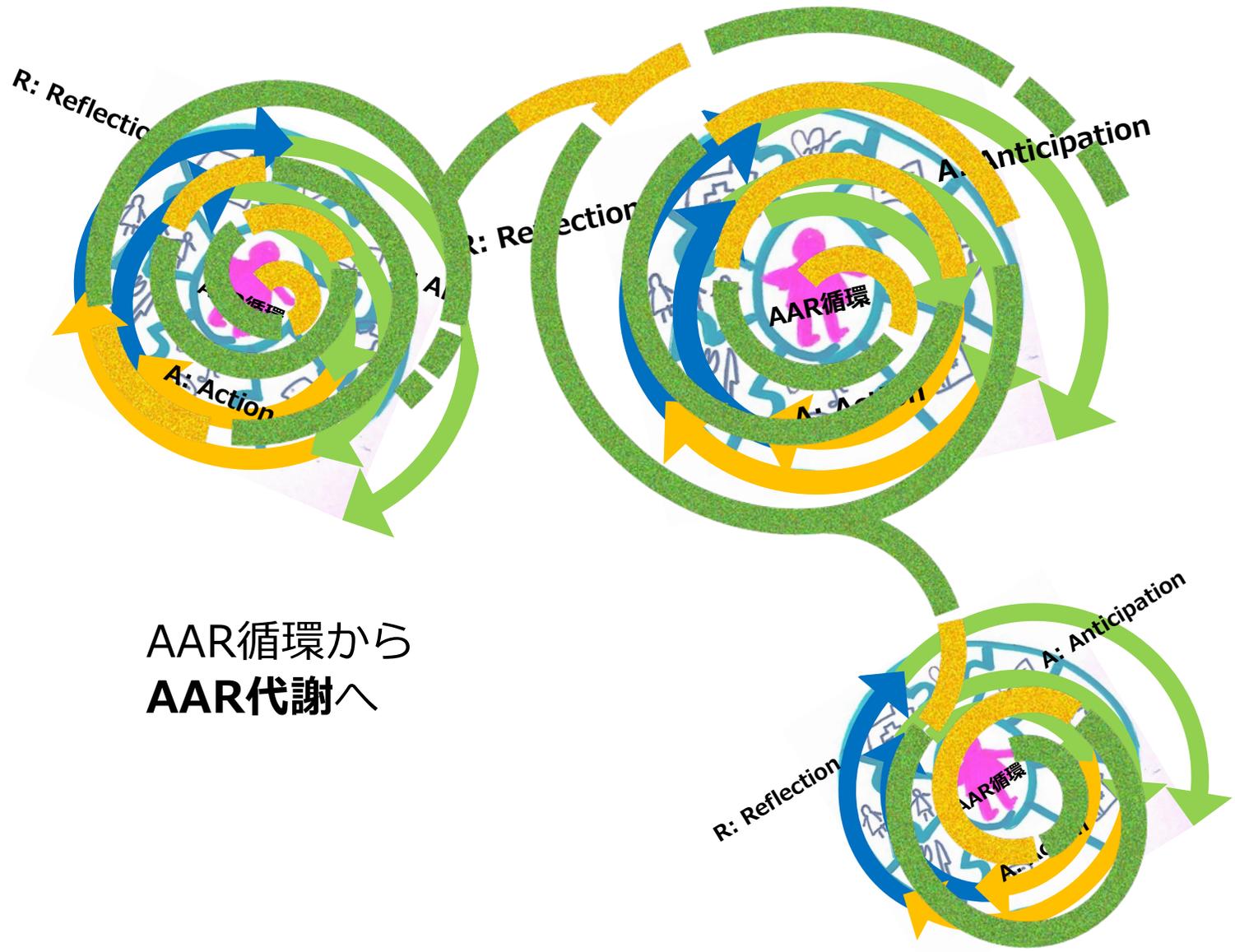
R: Reflection

A: Anticipation

AAR循環

A: Action





AAR循環から
AAR代謝へ

「草の根」から人間関係を耕して、社会基盤を整える

緩やかな「共感共同体」を多様に・多重につくる

⇒ 〈ちいさなしあわせを重ねる社会〉をふるさとに

人生100年時代: おとなも子どもも学び続ける社会へ

⇒ 「よきこと」に気づき、実践する
「かかわりあい」が公共財となる社会へ

**「ふるさと」とは「ひと」 : おとなが子どもにかかわることで
子どもはおとなを「ふるさと」にする
おとなが「ふるさと」になった故郷
= 本当の「ふるさと」**

10. 当事者になるということ

「学び」と「人づくり」を一つなかりに

： 島根県益田市「人が育つまち」「人が輝くまち」

益田版カタリ場の種類

小学校カタリ場

小学生 × 高校生



「思春期」を終えた高校生から、
これから「思春期」の小学生へ

- 卒業前の高校3年生とこれから中学生の小学5-6年生によるカタリ場
- 小学生が、中学・高校生活の未来のイメージを描くことができる
- カタリ場を受けてきた高校生は、学業生活を終える最後に、自分が語り手として、小学生に語る

中学校カタリ場

中学生 × 地域の大人



「挨拶」の関係から、「相談」の関係へ

- 中学校区の地域の大人と中学生によるカタリ場
- 公民館と連携をして、地域の担い手がカタリ場に参加
- 地域で会う機会があるからこそ、しっかり関係をつくり、その後の地域での活動づくりのきっかけへ

高校カタリ場

高校生 × 企業の大人



ちょっと年上の先輩と、
ちょっと先の未来を描く

- 社会人の若手や大学生と高校生によるカタリ場
- 市内企業と連携をして、若手職員がカタリ場に参加
- 住んでいる地区を超えて、多様な大人との繋がりづくり、活動づくりのきっかけへ

少子高齢人口減少社会を「関係」から考える

集落を消滅の危機から救う「自給家族」



「源流米ミネアサヒCSAプロジェクト」

一般社団法人押井営農組合



以下、鈴木辰吉氏提供スライド/2022.9.17ソーシャルイノベーター研修自給家族.pdf

米一俵を30000円で

米を買うだけではない

「かかわり」をつくる

生活をともに維持する

農業をともに維持する

農地をともに維持する

環境をともに維持する

「かかわり」を通して

農業における物質代謝を適正化する



**ある種のアソシエーションとしてのコミュニティ
よそ者が「当事者」になる**

11. Be-ingであることでDo-erになる

人生100年時代: おとなも子どもも学び続ける社会へ

⇒ 「よきこと」に気づき、実践する
「かかわりあい」が公共財となる社会へ

**「ふるさと」とは「ひと」 : おとなが子どもにかかわることで
子どもはおとなを「ふるさと」にする
おとなが「ふるさと」になった故郷
= 本当の「ふるさと」**

「つながり」をつくる？

「つながりたい存在」？

「つながらざるを得ない状況におかれている」？

「つながってしまっている」ことを分断してきたのでは？

**本来的に「つながってしまっている」ことを
どうWell-beingにつなげるのか？**

本来的にCompassionであるはず

ちいさなしあわせを重ねあう

Be-ing であることで **Do-er** になる

**人生100年時代を生きぬく
「学び続ける実践」を**